

在宅医療 患者家族と交流

医学部卒後、薬理学を専攻し大学院入学、結婚、出産。子育てをしながら実験や論文に追われた。同時に麻酔科で臨床も重ねた。大学内に保育園があり、日に何度か授乳にも行けた。周囲の理解と助けがあったのだ。大学院3年生で第2子出産、夫は大学勤務の麻酔科医師。当時は前例のない男性の育児休暇に、周囲にはとても驚かれ、反対もあった。だが、誰かがはじめないと男性の育児休暇ははじまらないと、夫の背中を強く押しした。周囲の先生方の仕

凛としていきる

理系女性の挑戦

家族ぐるみで在宅診療



事量は増え、多大な迷惑をかけた1カ月の育児休暇だった。

第3子出産時。出産当日午前は、腰が痛いから今日かな?などと話しながら外来をしていた。その晩、第3子

出産となった。

長男の小学校入学とともに実家のある横浜に転居、地元で在宅医療を積極的に始めた。このころ第4子出産。

は子連れ往診もさせて

いた。往診先の患者様の中には子連れ往診を楽しみにしてくださる方も多い。普段はほとんどお話をされない方も、子連れ往診の時には、大きくなるとニコニコ笑顔で

きた。すると、多くの

方が、今度連れて来てねと、孫のようにかわいがってくれている。子供たちも同行を楽しみにしている。こうして家族ぐるみの在宅診療ができることに感謝している。

子育てをしながら働くことができています。感謝したい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF) よこはまペインクリニック副院長 浅野医院理事 黒田 理佐



者様のご家族との交流も大事になる。子育て中の私をやさしく見守ってくれたのが患者様とご家族様だった。

第5子は産直後より連れ歩いた。相手は話のできない赤ちゃんであるにもかかわらず、いっぱい話しかけてくれる。子供の笑顔は何よりの薬だと確信した瞬間であった。

小学生となり、同行の機会が少なくなってきた。私は周囲の方々、私の家族の協力で5児の

プロフィール 98年藤田保健衛生大学医学部卒業後、薬理学専攻修了、02年麻酔科研究員。98年浅野医院理事。05年よこはまペインクリニック副院長。麻酔科標榜医、日本医師会認定産業医。